

モデル事業名	伊万里市川内野における黒米等の商品開発・環境に優しい生活の実践によるコミュニティ創生事業
活動団体名	特定非営利活動法人 伊万里はちがめプラン
ホームページ	http://hachigame.sagafan.jp/
所属/ 担当者名	理事長 福田 俊明 (問合せ先:)
連絡先	電話番号: 0955-22-4058 Eメールアドレス: hatigame@orion.ocn.ne.jp
活動地域	佐賀県伊万里市東山代町川内野地区

● 活動地域の概要

川内野地区は、伊万里市の中心部から約 20Km、標高 300~400mの山村にあり、長崎県松浦市に隣接する中山間地域である。本地区においても、かつて多くの山村地域と同様に若者の農業離れや、担い手の高齢化等による集落の活力の低下に悩んでいた。このことに危機感をもった農業後継者たちが平成 6 年に「コメCOME 倶楽部」を結成し、平成 8 年から古代米の「黒米」栽培を開始した。これを契機として、「むらづくり」に対する機運が高まり、若者の定住を目指すむらづくりの目標を策定し、「一人一人がむらづくりの主役」となって、集落の婦人会・老人会・子供会等とも連携した自主的な活動が活発に展開されている。

このような活動から「コメCOME 倶楽部」に次いで、黒米の加工・商品開発を行う女性による「夢耕房 農産物加工グループ」の立上げや、「畑の中のレストラン」「夢の市」「農業体験スクール」等の、都市住民との交流事業等が新たに展開されている。その結果、地区の人口も微減・横ばいとなり、現在 65 世帯 210 人 (H21 年 2 月末) となっている。



【位置図】



【中山間地域の川内野集落】

● 活動地域の課題

川内野地区の今までの活動を踏まえて、これからのコミュニティ創生によるむらづくりを推進するための課題としては、次の 5 つがあげられている。

- 1) 川内野の安全安心な食づくり (黒米の拡大、有機栽培の普及等)
- 2) 環境に優しい暮らしづくり (生活環境の改善、廃棄物の減量化等)
- 3) 都市農村交流の推進 (グリーンツーリズム、エコツーリズム等)
- 4) 周辺地区と市内グループ等との連携 (日南郷の特産品、農業体験スクール等)
- 5) 川内野の世代を越えた活動担い手の育成 (夢の市開催等のイベント)

● 活動の内容

・平成 20 年度

- 1) 黒米等農産品の商品開発・販路拡大事業
黒米の商品開発等のためコメCOME 倶楽部を中心に、市の支援を得つつ地区農家の人達等と協働して進める。
- 2) 食品廃棄物の堆肥化、BDF 化試行事業
生ごみの堆肥化や廃食用油の BDF 化のため佐賀大学農学部染谷研究室の指導を得て、地区住民等と協働して行う。
- 3) 家庭排水浄化の社会実験事業
環境浄化微生物洗剤による家庭排水浄化を実施するため、区長等の協力・指導を得て地区住民と協働して進める。
- 4) ホームページの作成・運用
これら事業を担う地区住民・ボランティアの参加促進と PR のためホームページを立上げる。

・平成 21 年度

- 1) 地区住民による生ゴミ堆肥づくり及び黒米・菜の花・日南郷茶・アスパラ等の有機栽培実証事業
- 2) 水源地における家庭排水浄化の社会実験及び浄化液「えひめ A I」の生産事業化計画調査
- 3) 廃食油の回収・BDF 化 (はちがめプランの設備活用) 及び地区の可燃ごみのガス化による「自前エネルギー」づくり事業計画調査
- 4) 農家民宿による地域間交流事業 (農村体験交流) の地区住民の意向調査及びそのモニター事業

● 活動の成果

・平成20年度



黒米クッキー・ケーキの試食会



はちがめ堆肥置き場の確保

1) 黒米等農産物の商品開発・販路拡大事業 : COME 倶楽部が進める古代米「黒米」の特性を活かした開発として、焼き菓子の「黒米クッキー」と「黒米ケーキ」の試作研究を行った。各地区での試食会等において、有益な意見等を得て本格的展開への目安をつけた。また、販路拡大の一環として黒米のレシピを編集・印刷し、市内の各方面に配布してPRを行った。

2) 食品廃棄物の堆肥化、BDF化試行事業 : 今年度は川内野での「はちがめ堆肥」の試用を進めるため、屋根付きの堆肥置き場が確保され9月から10月はアスパラなど野菜用に、11月以降は茶木と黒米に試用した

3) 家庭排水浄化の社会実験事業 : 本社会実験で用いた水質浄化剤の「えひめA I (あい) 2」は、各種の菌に糖と水を加え醗酵培養した液体で、汚水に含まれる有機物を分解し臭いを消す。今回は東京都多摩川源流で製造されている「源流きらり」を、全戸に配布し記録を取った結果、80%の使用者は効果があった。

4) ホームページの作成・運用 : はちがめプランのホームページに、「新たな公」の取り組みを紹介するホームページを開設した。

結果として・・・● はちがめ 堆肥による黒米の特別栽培米の認証を得ることができた。

- 伊万里市にグリーンツーリズム協議会が立ち上がりコメ COME クラブの幸松氏が会長に選ばれた。
- はちがめプランの活動が広く知れ渡り、はちがめ堆肥の売れ行きが好調になった。

・平成21年度



アスパラの栽培実験



民宿モニターの家族

1) 地区住民による生ゴミ堆肥づくり及び黒米、菜の花、日南郷茶、アスパラ等の有機栽培実証事業 : はちがめ堆肥を使う黒米栽培面積は1反程度であるため、面積を拡大するため「コメ COME 倶楽部」と話し合いを進める。また、有機栽培では、はちがめ堆肥の効果が確認されたことから、イチゴ、アスパラ、その他の野菜にも普及している。菜の花栽培は、「ななしぶき」を2反、直播と移植栽培を試している。

2) 水源地における家庭排水浄化社会実験及び浄化液「えひめA I」の生産事業化計画調査 : 前年度と同様に「源流きらり」を水質が問題となる夏期に配布し、記録を取った結果92%が、効果があったとしている。

3) 廃食用油の回収・BDF化及び地区の可燃ごみのガス化による「自前エネルギー」づくり事業計画調査 : 各家庭からの廃食用油の回収は20%が集まりはちがめプランでBDF化しトラクターで試行して皆さんに周知を図った。可燃ごみのガス化は、集落内で可燃ごみの収集が1ヶ所に集約されるため原料供給に見通しが立った。

4) 農家民宿による地域間交流事業の地区住民の意向調査及びそのモニター事業 : 川内野で以前から取り組んでいる農家を含めて意向調査を行った結果、10戸の農家の参加意向があり、農家民泊を円滑にするため「川内野農家民泊連絡会」を設立した。福岡からのモニターは4組12名の民泊を実施し好評であった。

● 今後の課題及び展望

・課題

- 1) 住民の生ごみ堆肥づくりは、堆肥舎の建設費等の可能性を再検討することが課題である。
- 2) 「えひめA I」の自前生産は、経済性のある生産システムを構築し志佐川流域地域に普及を図るため、諸事例などにより実現化に向けて川内野集落内の候補地など取り組みを加速化することが課題である。
- 3) 廃食用油の回収とBDFのトラクター利用が確認され、全市的にBDF事業を取り組みとの連携を図ることが課題となる。小規模な可燃ごみガス化プラント導入の可能性はあるが、発熱量や熱源利用、コスト面など課題がある。
- 4) 都市農村交流における農家民泊の必要性は全国的に高まっており、その一翼を担うため都市ニーズの把握と、農家民泊の情報の発信など、交流相互の情報チャンネルの形成が課題である。

・展望

- 1) 有機栽培の普及を加速させて食の安全安心を対外的にもPRし、他の地区や加工関連業種とも連携し農商工連携の一つのモデルとして形成することを目標としていきたい。
- 2) 「えひめA I」の利用普及は「環境に優しい暮らし」の代表例であるため、生産事業化施設を建設し、源流地域のみならず市内へ普及させて、全市民が「環境に優しい生活」を享受できる暮らしへの変革を図っていきたい。
- 3) 廃食用油の回収とBDFは、全市的な事業と連携を図ることで実現化を図ることができ、可燃ごみガス化は、熱利用として農家民泊の共同浴場を整備すれば「環境に優しい暮らし」の仕上げとなる。
- 4) 農家民泊の魅力に「環境に優しい暮らし」が加わることで、他地区にない新たな魅力が創出され交流拠点となる。